

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジンセイシンジョシガクイン 学校法人 聖心女子学院							
フリガナ大学の名称	セイシンジョシダイガク 聖心女子大学 (The University of the Sacred Heart, Tokyo)							
大学本部の位置	東京都渋谷区広尾4丁目3番1号							
大学の目的	19世紀初頭のフランスで聖心女子学院が創立された際の教育理念である「聖心スピリット」、すなわち「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」をもとに、本学では「知性を磨く」、「使命感を自覚する」、「発信力、実践力を高める」という3つの教育目標を定め、これらの資質を持つ人材の養成を目指している。							
新設学部等の目的	<p>聖心女子大学文学部は8学科(うち教育学科は教育学専攻と初等教育学専攻)からなるが、入学時は全員が基礎課程に所属し、2年次に、専攻課程の8学科(2専攻)に進学する教育課程をとっている。このうち、今回収容定員増を計画しているのは、人間関係学科・国際交流学科・教育学科初等教育学専攻・心理学科の3学科1専攻である。人間関係学科は、現代社会に生きる人間を対象として、個人の心理的問題から、文化・社会に関わるマクロな問題にいたるまでを、学際的かつ実証的に理解し、それに基づいた自らの考えを積極的に表現できる人材の養成を目的とする。国際交流学科は、社会の変化に適切に対応できる見識と、幅広い国際的視野を備え、文化間の相互理解や交流に貢献できる人材の養成を目的とする。教育学科初等教育学専攻は、子ども一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「ところ」の成長を支え、強い責任感と情熱を抱き、たしかな力量・理解力・知的探求心を持った小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の養成を目的とする。心理学科は、人間の心理とその発達、それにとともなう行動を科学的・実証的に理解し、国際化や高度情報化のなかで、多種多様な情報を的確に分析し、表現できる人材の養成を目的とする。</p> <p>これら3学科1専攻は、2年次に進学を希望する学生の数が多く、また幅広い教養と高度の専門性を合わせ持ち、それらをもとにした柔軟な思考力と的確な判断力を有する卒業生を数多く社会に送り出し、高い評価を得ている。さらに初等教育学専攻については、現在の社会的な要請に対処する必要から、平成30年度から保育士養成課程を置くことを計画している。そこで今回、学生の志望と社会的要請に応えるため、これら3学科1専攻の収容定員を行いたい。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	英語英文学科	4	90	2年次 6	378	学士(英語英文学)	平成19年4月 第1年次 平成20年4月 第2年次	東京都渋谷区広尾4丁目3番1号
	日本語日本文学科	4	45	2年次 6	198	学士(日本語日本文学)	平成3年4月 第1年次 平成13年4月 第2年次	同上
	史学科	4	55	2年次 2	226	学士(史学)	平成26年4月 第1年次 平成27年4月 第2年次	同上
	人間関係学科	4	60 (55)	2年次 2	246 (226)	学士(人間関係)	平成30年4月 第1年次 平成27年4月 第2年次	同上
	国際交流学科	4	65 (60)	2年次 2	266 (246)	学士(国際交流)	平成30年4月 第1年次 平成27年4月 第2年次	同上
哲学科	4	40	2年次 4	172	学士(哲学)	昭和23年4月 第1年次 平成13年4月 第2年次	同上	

	教育学科 教育学専攻	4	25	2年次 4	112	学士(教育 学)	平成26年4月 第1年次 平成27年4月 第2年次	同上	
	教育学科 初等教育学専攻	4	50 (40)	—	200 (160)	学士(初等教 育学)	平成30年4月 第1年次	同上	
	心理学科	4	60 (55)	2年次 4	252 (232)	学士(心理 学)	平成30年4月 第1年次 平成27年4月 第2年次	同上	
	計		490 (465)	30 (30)	2050 (1950)				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)		該当なし							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	—	講義 — 科目	演習 — 科目	実験・実習 — 科目	計 — 科目	— 単位			
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
	新 設	文学部 英語英文学科	8人 (8)	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	60人 (60)
		日本語日文学科	4 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	30 (30)
		史学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	37 (37)
		人間関係学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	45 (45)
		国際交流学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	65 (65)
		哲学科	4 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	34 (35)
		教育学科 教育学専攻 初等教育学専攻	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (1)	14 (15)	0 (0)	77 (78)
		心理学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	40 (39)
		総合現代教養科目	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	32 (32)
計	47 (47)	19 (19)	7 (7)	0 (1)	73 (74)	0 (0)	— (—)		
既 設 分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計		47 (47)	19 (19)	7 (7)	0 (1)	73 (74)	0 (0)	— (—)	
教員以外の 職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		61人 (61)		140人 (140)		201人 (201)		
	技術職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	図書館専門職員		3 (3)		2 (2)		5 (5)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計			65 (65)		142 (142)		207 (207)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積： 4,201 m ²			
	校 舎 敷 地	47,414 m ²	0 m ²	0 m ²	47,414 m ²	借用期間： 期間なし			
	運 動 場 用 地	4,424 m ²	0 m ²	0 m ²	4,424 m ²				
	小 計	51,838 m ²	0 m ²	0 m ²	51,838 m ²				
	そ の 他	34,640 m ²	0 m ²	0 m ²	34,640 m ²				
合 計	86,478 m ²	0 m ²	0 m ²	86,478 m ²					
校 舎		専 用 32,185 m ² (32,185 m ²)	共 用 (0 m ²)	共用する他の 学校等の専用 (0 m ²)	計 32,185 m ² (32,185 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	34 室	18 室	19 室	12 室 (補助職員 9 人)	1 室 (補助職員 1 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 大学全体		室 数 82 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	388,954 [122,978] (373,954 [120,578])	2,760 [1,140] (2,740 [1,135])	28,768 [28,199] (22,768 [22,199])	9,610 (9,600)	47 (46)	0 (0)		
	計	388,954 [122,978] (373,954 [120,578])	2,760 [1,140] (2,740 [1,135])	28,768 [28,199] (22,768 [22,199])	9,610 (9,600)	47 (46)	0 (0)		
図 書 館		面積 3,962 m ²	閲覧座席数 342	収 納 可 能 冊 数 517,389		大学全体			
体 育 館		面積 1,442 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート5面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		420千円	420千円	420千円	420千円	420千円	420千円	420千円
	共同研究費等		5,550千円	5,550千円	5,550千円	5,550千円	5,550千円	5,550千円	5,550千円
	図書購入費	65,000千円	65,000千円	65,000千円	65,000千円	65,000千円	65,000千円	65,000千円	65,000千円
	設備購入費	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,370千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入等							
大 学 の 名 称		聖心女子大学							
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
文学部		年	人	年次 人	人		倍		
英語英文学科		4	90	2年次 6	378	学士(英語英 文学)	1.16	平成19年度	東京都渋谷区広尾4 丁目3番1号
日本語日本文学科		4	45	2年次 6	198	学士(日本語 日本文学)	1.17	平成3年度	同上
史学科		4	55	2年次 2	226	学士(史学)	1.17	昭和23年度	同上
人間関係学科		4	55	2年次 2	226	学士(人間関 係)	1.17	昭和23年度	同上
国際交流学科		4	60	2年次 2	246	学士(国際交 流)	1.17	昭和23年度	同上
		入学時は文学部 としての一括募 集。2年次進級 時に学則定員に 従い按分して学 科別に収容す る。							

既設大学等の状況	哲学科	4	40	2年次 4	172	学士（哲学）	1.16	昭和23年度	同上		
	心理学科	4	55	2年次 4	232	学士（心理学）	1.17	昭和32年度	同上		
	教育学科 教育学専攻	4	25	2年次 4	112	学士（教育学）	1.17	昭和32年度	同上		
	教育学科 初等教育学専攻	4	40	—	160	学士（初等教育学）	1.16	昭和32年度	同上		
	大学院										
	文学研究科 英語英文学専攻	2	10	—	20	修士（英語英文学）	0.00	平成16年度	東京都渋谷区広尾 4丁目3番1号		
	（修士課程）	日本語日本文学専攻	2	5	—	10	修士（日本語日本文学）	0.20	平成16年度	同上	
		史学専攻	2	5	—	10	修士（史学）	0.50	昭和27年度	同上	
		哲学専攻	2	6	—	12	修士（哲学）	0.16	平成11年度	同上	
	（博士前期課程）	文学研究科 社会文化学専攻	2	6	—	12	修士（社会文化学）	0.16	平成16年度	東京都渋谷区広尾 4丁目3番1号	
		人間科学専攻	2	12	—	24	修士（人間科学） 修士（心理学）	0.54	平成7年度	同上	
	（博士後期課程）	文学研究科 社会文化学専攻	3	2	—	6	博士（社会文化学）	0.16	平成18年度	東京都渋谷区広尾 4丁目3番1号	
		人文学専攻	3	4	—	12	博士（文学）	0.33	平成13年度	同上	
		人間科学専攻	3	2	—	6	博士（人間科学） 博士（心理学）	0.66	平成9年度	同上	
	附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人 聖心女子学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
文学部								収容定員増
英語英文学科	90	2年次6名	378	英語英文学科	90	2年次6名	378	
日本語日本文学科	45	2年次6名	198	日本語日本文学科	45	2年次6名	198	
史学科	55	2年次2名	226	史学科	55	2年次2名	226	
人間関係学科	55	2年次2名	226	<u>人間関係学科</u>	<u>60</u>	2年次2名	<u>246</u>	
国際交流学科	60	2年次2名	246	<u>国際交流学科</u>	<u>65</u>	2年次2名	<u>266</u>	
哲学科	40	2年次4名	172	哲学科	40	2年次4名	172	
教育学科 教育学専攻	25	2年次4名	112	教育学科 教育学専攻	25	2年次4名	112	
教育学科 初等教育学専攻	40	—	160	<u>教育学科 初等教育学専攻</u>	<u>50</u>	—	<u>200</u>	
心理学科	55	2年次4名	232	<u>心理学科</u>	<u>60</u>	2年次4名	<u>252</u>	
計	465	30	1950	計	<u>490</u>	30	<u>2050</u>	
聖心女子大学大学院								
文学研究科 英語英文学専攻(M)	10	—	20	文学研究科 英語英文学専攻(M)	10	—	20	
文学研究科 日本語日本文学専攻(M)	5	—	10	文学研究科 日本語日本文学専攻(M)	5	—	10	
文学研究科 史学専攻(M)	5	—	10	文学研究科 史学専攻(M)	5	—	10	
文学研究科 社会文化学専攻(M)	6	—	12	文学研究科 社会文化学専攻(M)	6	—	12	
文学研究科 哲学専攻(M)	6	—	12	文学研究科 哲学専攻(M)	6	—	12	
文学研究科 人間科学専攻(M)	12	—	24	文学研究科 人間科学専攻(M)	12	—	24	
文学研究科 社会文化学専攻(D)	2	—	6	文学研究科 社会文化学専攻(D)	2	—	6	
文学研究科 人間科学専攻(D)	2	—	6	文学研究科 人間科学専攻(D)	2	—	6	
文学研究科 人文学専攻(D)	4	—	12	文学研究科 人文学専攻(D)	4	—	12	
計	52	—	112	計	52	—	112	

都道府県内における位置関係の図面

東京都渋谷区広尾4丁目3番1号
聖心女子大学



聖心女子大学 アクセスマップ



所要時間等は目安です。実際にご来学の節は、ご自分で各交通機関にお問い合わせください。



- 東京メトロ日比谷線「広尾駅」
(2番「天現寺橋(聖心女子大学)方面」出口)下車
広尾商店街(散歩通り)を通り 約3分
- JR渋谷駅東口または恵比寿駅より都バス
「日赤医療センター前」行 終点「日赤医療センター前」下車 約3分
- JR品川駅より都バス「新宿駅西口」行
「広尾橋」下車 約4分
- JR目黒駅より都バス「千駄ヶ谷駅」、「新橋駅」行
「広尾橋」下車 約4分

学則の一部改正（保育士養成課程および収容定員変更）について

1. 主な変更の事由

(1) 聖心女子大学文学部の収容定員を増員する。

入学定員は490名（25名増）、収容定員を2050名（100名増）とする。

各学科の入学定員は、人間関係学科 60名（5名増）、国際交流学科65名（5名増）、教育学科初等教育学専攻50名（10名増）、心理学科60名（5名増）とする。

(2) 文学部教育学科初等教育学専攻に保育士養成課程を置く。

2. 変更点

聖心女子大学学則について、以下変更を行う。

(1) 上記1（1）に伴い、第3条を改正する。

(2) 上記1（2）に伴い、第3条の2、第27条、第27条の2、第27条の3、第27条の4、第27条の5を新設と改正する。

3. 上記趣旨に伴う各種規程

(1) 「聖心女子大学学則」の一部改正の新旧対照表（案）

※**ゴチック**の部分が改正部分（以下同じ）

改正後				現行			
第1条 ～ 第2条 省略				同 左			
第3条 文学部の収容定員は、次のとおりとする。				第3条 文学部の収容定員は、次のとおりとする。			
	入学 定員	2年次編 入学定員	収容 定員		入学 定員	2年次編 入学定員	収容 定員
英語英文学科	90名	6名	378 名	英語英文学科	90名	6名	378 名
日本語日本文学 科	45名	6名	198 名	日本語日本文学 科	45名	6名	198 名
史学科	55名	2名	226 名	史学科	55名	2名	226 名
人間関係学科	60名	2名	246 名	人間関係学科	55名	2名	226 名
国際交流学科	65名	2名	266 名	国際交流学科	60名	2名	246 名
哲学科	40名	4名	172 名	哲学科	40名	4名	172 名
教育 学科	教育学専 攻 25名	4名	112 名	教育 学科	教育学専 攻 25名	4名	112 名

心理学科	<u>60名</u>	4名	<u>252</u> 名
合計	<u>490</u> 名	30名	<u>2,050</u> 名

心理学科	<u>55名</u>	4名	<u>232</u> 名
合計	<u>465</u> 名	30名	<u>1,950</u> 名

第3条の2 本学の文学部教育学科初等教育学専攻に小学校教諭、幼稚園教諭及び保育士養成課程を置く。保育士養成課程に関しては別に定める。


新設

第4条 ～ 第26条 省略

同左

第27条 学生は、在学中に別表第1に掲げた授業科目の中から、別に定める履修方法に関する規則に従い、卒業に要する132単位以上を修得しなければならない。

第27条 学生は、在学中に別表第1に掲げた授業科目の中から、別に定める履修方法に関する規則に従い、卒業に要する132単位以上を修得しなければならない。

改正案第27条の2へ移行 

2 教育職員免許法に定める教員免許状並びに博物館法に定める学芸員の資格を取得しようとする者は、それぞれ法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。なお、本学において取得できる教員免許状並びにその免許教科の種類等は、別表第2のとおりである。

2 単位取得の認定は、試験（論文、報告等を含む。）、平常の成績及び出席状況等を総合して決定する。なお、これらの細目については、別に定める履修要項によるものとする。

3 単位取得の認定は、試験（論文、報告等を含む。）、平常の成績及び出席状況等を総合して決定する。なお、これらの細目については、別に定める履修要項によるものとする。

3 試験及び卒業論文の成績は、AA、A、B、C、Fの5段階とし、C以上を合格とする。

4 試験及び卒業論文の成績は、AA、A、B、C、Fの5段階とし、C以上を合格とする。

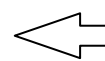
4 病気又は正当な理由により試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

5 病気又は正当な理由により試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

5 合格点を取得できなかった者に対しては、卒業年次に限り願い出により再試験を行うことがある。

6 合格点を取得できなかった者に対しては、卒業年次に限り願い出により再試験を行うことがある。

第27条の2 教育職員免許法に定める教員免許状並びに博物館法に定める学芸員の資格を取得しようとする者は、それぞれ法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。なお、本学において取得できる教員免許状並びにその免許教科の種類等は、別表第2のとおりである。

 現行第27条第2項から移行

第27条の3 保育士資格を取得しようとする者は、法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。なお、これらの細目については、別に定める。

第27条の4 本学に日本語教員課程を置く。

2 日本語教員課程を修了しようとする者は、別に定める履修要項により、課程の修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

3 日本語教員課程を修了した者には、卒業時に日本語教員課程修了証を授与する。

第27条の5 本学に次の副専攻コースを置く。

- (1) 各専攻コースが開設する副専攻コース
- (2) 学科横断的に開設される副専攻コース

2 副専攻コースを修了しようとする者は、別に定める履修要項により、各コースの修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

3 副専攻コースを修了した者には、卒業時に副専攻修了証を授与する。

附 則

1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。

2 改正後の第3条の規定は、平成30年4月1日以後に第1年次に入学する者について適用する。

3 改正後の第3条の規定にかかわらず、平成30年度から平成32年度までの各学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

4 平成29年3月31日に在籍する者並びに平成30年4月1日に2年次に編入学する者については、改正後の第3条の2及び第27条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

新 設

第27条の2 本学に日本語教員課程を置く。

2 日本語教員課程を修了しようとする者は、別に定める履修要項により、課程の修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

3 日本語教員課程を修了した者には、卒業時に日本語教員課程修了証を授与する。

第27条の3 本学に次の副専攻コースを置く。

- (1) 各専攻コースが開設する副専攻コース
- (2) 学科横断的に開設される副専攻コース

2 副専攻コースを修了しようとする者は、別に定める履修要項により、各コースの修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

3 副専攻コースを修了した者には、卒業時に副専攻修了証を授与する。

—

	平成30年度			平成31年度			平成32年度		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
英語英文学科	90	6	378	90	6	378	90	6	378
日本語日本文学科	45	6	198	45	6	198	45	6	198
史学科	55	2	226	55	2	226	55	2	226
人間関係学科	60	2	231	60	2	236	60	2	241
国際交流学科	65	2	251	65	2	256	65	2	261
哲学科	40	4	172	40	4	172	40	4	172

教育学科 教育学専攻	25	4	112	25	4	112	25	4	112
教育学科 初等教育学専攻	50	-	170	50	-	180	50	-	190
心理学科	60	4	237	60	4	242	60	4	247
合 計	490	30	1975	490	30	2000	490	30	2025

以上

目 次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容
4. 大学全体の施設・設備の変更内容

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1 学則変更（収容定員変更）の内容

本学文学部人間関係学科、国際交流学科、教育学科初等教育学専攻、心理学科について、平成30(2018)年度4月から、「聖心女子大学学則」第3条を、以下のように変更する。

- ① 人間関係学科の入学定員を「55名」から5名増の「60名」に、収容定員を「226名」から20名増の「246名」とする。
- ② 国際交流学科の入学定員を「60名」から5名増の「65名」に、収容定員を「246名」から20名増の「266名」とする。
- ③ 教育学科初等教育学専攻の入学定員を「40名」から10名増の「50名」に、収容定員を「160名」から40名増の「200名」とする。
- ④ 心理学科の入学定員を「55名」から5名増の「60名」に、収容定員を「232名」から20名増の「252名」とする。
- ⑤ 以上の結果、本学文学部全体の入学定員を「465名」から25名増の「490名」に、収容定員を「1,950名」から100名増の「2,050名」とする。

なお、①～⑤の変更を表で示すと、以下の通りである。

現行				学則変更後			
学科名等	入学定員	編入学定員	収容定員	学科名等	入学定員	編入学定員	収容定員
人間関係学科	55	2	226	人間関係学科	60	2	246
国際交流学科	60	2	246	国際交流学科	65	2	266
教育学科 初等教育学専攻	40	—	160	教育学科 初等教育学専攻	50	—	200
心理学科	55	4	232	心理学科	60	4	252
文学部合計※1	465	30	1950	文学部合計※1	490	30	2050

※1 英語英文学科、日本語日本文学科、史学科、哲学科、教育学科教育学専攻を含む。

2 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) 聖心女子大学の理念と目的

聖心女子大学の母体となった聖心女子学院の創立は、19世紀初頭のフランスに遡る。聖マгдаレナ・ソフィア・バラという修道女がカトリックの女子教育修道会である聖心会を設立し、そのもとで聖心女子学院が創立されたのである。その教育理念は、「一人一人の人間をかけがえない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」というものであり、これは全世界の聖心姉妹校に共有されている。

聖心女子大学では、この理念をもとに、文学部のディプロマ・ポリシーとして以下8つの資質能力を持つ人材の養成を目指している。

1. 世界と人間についての幅広い視野と深い洞察を備えた教養
2. 専攻する学問分野に関する高度な専門知識と基本的な研究・調査能力
3. 論理的な思考力と柔軟かつ的確な判断力
4. 自己の立場や価値観を見定め、自らの意見を自らの言葉で発信する力
5. 他者と共感的に関わり、他者を尊重し、理解し、協働する態度
6. 現代の諸問題をグローバルな視野でとらえ、具体的、現実的に取り組む行動力
7. 各自の置かれた場で、根本的な問題や隠れたニーズを発見して、対応する力
8. 生涯にわたり、知的関心を発展させ、主体的に学び続ける姿勢

(2) 聖心女子大学と収容定員変更を計画している学科の沿革

聖心女子大学は、大正 5(1916) 年創立の私立聖心女子学院高等専門学校を前身とする新制大学として、昭和 23 (1948) 年に発足した。

設立当初は、文学部に外国語外国文学科(平成 19(2007) 年、英語英文学科と改称)、国語国文学科(平成 3(1991) 年、日本語日本文学科と改称)、歴史社会学科、哲学科を置く 4 学科体制であったが、昭和 26(1951) 年 4 月、教育学科が新設され、昭和 32(1957) 年 4 月には、初等教育学専攻の設置によって、教育学科が同専攻と教育・心理学専攻とに分けられた。

その後昭和 47(1972) 年 4 月、歴史社会学科が史学「専攻」と人間関係「専攻」に分けられ、平成 5(1993)年には、一般教養課程の一部を統合して、歴史社会学科のなかに国際交流「専攻」が置かれた。なお、これら歴史社会学科の各「専攻」は、学則に明記されていない学科内の組織であったため「 」付きで表記したが、実態としては学科とほぼ同等の独自の教育課程を持ち、学内でも一定の定員を設定していた。

さらに平成 26(2014) 年 4 月、本学が持つ多様な学問領域をより簡潔、明瞭な形で示すため、上記の各「専攻」、及び教育学科教育・心理学専攻のなかの心理学分野を学科として独立させ、現在では英語英文学科、日本語日本文学科、史学科、人間関係学科、国際交流学科、哲学科、教育学科〈教育学専攻・初等教育学専攻〉、心理学科という 8 学科 2 専攻の教育組織を持つにいたった。

(3) 学則変更の必要性

聖心女子大学では、冒頭に掲げた教育理念と、上述の 8 つの資質能力を育成するため、各学科・専攻での専門的教育はもとより、キリスト教に関する教育、国際性を身につけるための外国語教育に加え、幅広い教養と自由で柔軟な思考力を育てるリベラルアーツ教育にも大きな力を注いできた。

このうちリベラルアーツ教育については、「3.」で具体的に述べるように、幅広い視野や複眼的な思考力を身につけることを目的として、所属学科・専攻が開設する専攻課程分野のうち、学生の所属学科以外の授業科目(関連分野)を最大で約 30~40%修得できるように卒業要件を設定していることや、すべての学科・専攻の学生にとって関連分野となる授業科目として、総合現代教養科目群(資料 1)を設けていることなどが、ほかにあまり例のない、本学独自の特色である。総合現代教養科目群には社会科学的分野や自然科学的分野の科目も含まれ、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、その中で自身の生き方を考えていくことのできる、幅広

い知識と教養を獲得することを目的としている。また、このような関連分野の授業科目を系統立てて履修するために、副専攻の制度も設けられている(資料2)。副専攻には、「学科が提供する副専攻」と「総合リベラルアーツ副専攻」の2種類があり、前者は学生自身が所属する学科・専攻以外に1つの学科を選び、その学科の授業科目を集中的に履修する副専攻であり、主専攻とあわせて履修することにより、複眼的思考方法を身につけることを目的とする。一方後者は、各学科・専攻における、特定の学問分野を対象とした、卒業論文を到達目標とする専門的教育と並行して、研究対象への幅広く多様なアプローチの方法を身につけ、また現代社会の複雑かつ多様な問題について考える力を伸ばすことを目的としている。具体的には、大学が用意した4つのカテゴリーのもとで、学生自身が課題を設定し、これに関連する授業科目を所属学科以外の授業科目や総合現代教養科目のなかから選択して履修し、設定した課題についての修了レポートを作成するというものである。

さらに、平成29(2017)年度に設置するグローバル共生研究所がリベラルアーツ教育の推進の一端を担うこととなっている。当研究所の目的は、

聖心女子大学の「大学の理念」に基づき、地球を共有する人類の一員として世界と地域を視(み)、世界と地域の人々と積極的に交わり、持続可能で平和な世界の実現を目指してグローバルあるいはローカルな諸課題に主体的に関わることのできる深い知性と広い視野、感受性、柔軟性および実践的な行動力を持つ人間を育成するために必要な研究や教育を行う。(「聖心女子大学グローバル共生研究所規程」第2条)

というものである。すなわち本研究所の教育面での目的は、リベラルアーツ教育によって身につけた幅広い視野と柔軟な思考力を、冒頭の教育理念にある「自ら学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」と強く結びつけるための、より実践的、行動的な教育プログラムの開発にある。このグローバル共生研究所のもとで開発し、運営する教育プログラムは、所属学科・専攻を問わない、全学的なものとし、このプログラムを通じて、異なる価値観をもつ人と積極的に関わり、共生・協働するグローバルマインドを育成する予定である。

近年、中央教育審議会は、「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」(平成28(2016)年5月30日答申)を公表し、そこでは特定の職業に関して高度な専門的知識と実践的対応力を持つ人材を養成する「専門職業大学」の設立が提言されている。しかしそのなかにあっても、平成24(2012)年のいわゆる「質的転換」答申で述べられている、答えのない問題に解を見出していく能力や、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う能力、想定外の困難に際して的確な判断の基盤となる教養、知識、経験などを育成するために、主体的な学修を促す」という高等教育機関が果たすべき役割の重要性はいささかも変わらないとされている。さらに最近発表された「第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方」(平成29(2017)年1月19日)の「Ⅱ. 今後の教育政策に関する基本的な方針」で、「1. 夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」として、

○少子高齢化やグローバル化の一層の進展が予想される中においては、外国人、障害者、高齢者等も含め、多様な人々がそれぞれ得意な分野で能力を発揮するとともに、互いの違いを尊重しつつ支え合うことで、共生社会を創り上げていくことが不可欠である。

○特に、グローバル化に対応するためには、英語等の語学力に加えて、世界の人々と積極的にコミュニケーションを取り、国際社会の中で、バランス感覚を持ちつつ自ら挑戦する気概をもつこと、日本の歴史、伝統や文化に対する理解を深め、様々な国の人々と理解し合い協働できる姿勢を育むことが重要である。

という点が指摘されている。グローバル共生研究所の教育上の目的は、まさにこのような考え方と一致するものであり、次の「2. 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」という方針とも密接に関連している。聖心女子大学のリベラルアーツ教育は、まさにこのような「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力」を育てるためのものである。

以上、本学におけるリベラルアーツ教育の特色と今後の展望、教育政策のなかでの位置づけを述べてきたが、今回学則変更(収容定員増)を計画している3学科1専攻のうち、とくに人間関係学科と国際交流学科は、二重の意味で本学におけるリベラルアーツ教育の推進と深く関わっている。

第一に、この2つの学科は、いずれも本学のなかでは比較的歴史の浅い学科だが、それゆえに伝統的な1つの学問領域に対応した学科構成ではなく、社会科学分野をも含む幅広い学問領域を持ち、それらによって学際的、複眼的に人間、社会、世界を追究することを目的とした学科である。すなわち人間関係学科と国際交流学科は、本学のリベラルアーツ教育を学科単位で具現化したものといえる。第二に、大学全体のグローバルマインドを育むリベラルアーツ教育と研究の推進のため設置されるグローバル共生研究所には、全学科・専攻から選ばれた教員が兼任所員として参加することとなるが、人間関係学科からは、所長(比較文化学・国際開発学)と所員(文化人類学)、国際交流学科からは、副所長(日欧比較思想)が任命され、中心的な役割を2学科の教員が果たしている点である。

このように、人間関係学科と国際交流学科は、聖心女子大学におけるリベラルアーツ教育推進のために、その中核となっていく学科であり、今回収容定員を増員することによって、学内外に両学科の特色、ひいては本学のリベラルアーツ教育の特色を積極的に打ち出していきたいと考える。

次に教育学科初等教育学専攻についてである。本専攻は、小学校教諭または幼稚園教諭の免許状取得を卒業要件としており、昭和32(1957)年に設置されて以来、数多くの卒業生を小学校教諭・幼稚園教諭として社会に送り出してきた。近年では本専攻の卒業生のうち、毎年70%前後が小学校教諭あるいは幼稚園教諭となっている。また「3.」で述べるように、本専攻はこれまで一貫して「高い志を持ち、教育への本質的理解をベースに生涯学習の視点とグローバルな視点とを持った、初等教育に貢献できる人材の養成」をその目的としており、小学校教諭・幼稚園教諭として活躍する卒業生は、質の面でも社会から高い評価を得ている。さらに、同じ学校法人に属する聖心女子専門学校保育科が、平成29(2017)年度からの募集停止を決定し、保育士の養成については、本専攻がその責務を継承することとなり、平成30(2018)年4月からの保育士養成課程の設置に向けて準備を進めている。聖心女子専門学校保育科は、昭和42(1967)年以来、50年の歴史を持ち、その間、2,400人を超える幼稚園教諭・保育士を社会に送り出してきた。その伝統を4年制大学である本学初等教育学専攻が引き継ぐこととなったのである。保育士の養成は、「内閣府子ども・子育て新支援制度」など、一連の国の政策にも示されているように、わが国の喫緊の課題である。そのような社会的要請に応えるため、これまで本専攻が養

成してきた小学校教諭、幼稚園教諭に加え、聖心女子専門学校保育科が養成してきた質の高い保育士を、さらに高度な教育研究のもとで、より多く社会に送り出すため、収容定員の増員をはかりたいと考える。

最後に心理学科について述べる。本学心理学科は、認知心理学・発達心理学・臨床心理学の3つの専門領域から構成されているが、心理学全体の基盤となる認知心理学領域の重要性は依然として変わらないとしても、近年の社会的な要請、あるいは学生の関心という面では、発達心理学・臨床心理学領域の重要性が相対的に増している。それは、平成27(2015)年9月制定の公認心理師法によって国家資格としての公認心理師が定められたこと、同年12月の中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」のなかで、教育現場にスクールカウンセラー等の教員以外の専門家を法的に位置づけられたスタッフとして置くことが提言されていることなどにも示されている。このような動きをうけ、心理学科ではすでに平成27(2015)年度に臨床心理学領域の専任教員を1名増員しており、今後、教育現場等における質の高い心理・福祉の専門家を数多く社会に送り出す基礎を固めるため、収容定員の増員をはかりたいと考える。

以上のような学則変更の必要性に加え、本学固有の事柄について付言しておきたい。「3.」でより詳しく述べるが、聖心女子大学では、文学部として学生を一括募集し、1年次は基礎課程として特定の学科・専攻に所属せず共通の教育課程で学び、2年次以降、学科・専攻に所属するという体制をとっている。もちろん、多くの学生は入学時に進学したい学科・専攻をある程度決めており、それは5月前半に実施する「新入学生アンケート」にも示されているが、1年次の年度末(1月中旬から2月後半にかけて)に実施する学科・専攻決定の手続の際には、志望動向が「新入学生アンケート」の結果と相当異なる場合も少なくない。しかし、今回学則変更を計画している3学科1専攻は、「新入学生アンケート」の結果でも、1月中旬の「学科・専攻志望動向調査」の結果でも、近年一貫して上位4位までを占めており、そのような1年次生の志望動向も、学則変更(収容定員変更)を計画する理由の一つである(資料3)。

3 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(1) 文学部全体の教育課程

ここでは、まず文学部全体の教育課程の概要を記した後、収容定員増員を計画している3学科1専攻の教育課程とその変更の有無、変更する場合の内容について説明していく。

(ア) 卒業要件と科目区分

本学文学部における卒業要件は、以下の通りである。

科目区分		人間関係学科、国際交流学科、心理学の必要単位数	教育学科 初等教育学専攻の 必要単位数
分野	系列(配当年次)		
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ(1・2年次)	4	4
	キリスト教学Ⅱ(3・4年次)	4	4
	第一外国語(1・2年次)	8	8

		第二外国語(1・2年次)	8	8
		体育運動学(1年次)	2	2
専攻課程分野	専攻分野	専攻科目	60	92
	関連分野	総合現代教養科目 基礎課程科目(1年次) 他学科の専攻科目 他	26	6
		上記2分野のいずれかの科目	12	—
卒業論文(4年次)			8	8
計			132	132

なお上表のうち、人間関係学科、国際交流学科、心理学科は、専攻分野 60 単位、関連分野 26 単位、あわせて 98 単位としているが、60 単位・26 単位は両分野の最低必要修得単位であり、のこりの 12 単位は、両分野のいずれかの科目を修得するという意味である。また、教育学科初等教育学専攻については、上記の必要単位修得に加え、小学校教諭一種免許状又は幼稚園教諭一種免許状取得を卒業要件としており、これにともない、専攻分野・関連分野の単位数も他の学科・専攻とは異なっている。

次に各科目区分・系列の内容とその趣旨について説明する。

5 つの系列から構成される「全学必修分野」は、全学生が本学の教育理念を理解し、在学中および卒業後を通じて身につけるべき教養の基礎を修得させるものである。

「キリスト教学」は、本学の教育の基盤であるキリスト教の価値観について、多面的・多角的な視点で学ぶものであり、これらの履修を通じて、キリスト教の価値観に基づき、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを涵養する。

「第一外国語」(英語)「第二外国語」(フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語)のなかから選択、外国人留学生は日本語を選択)は、国際化の時代にふさわしい語学力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とすると同時に、諸外国の文化的背景を学び、国際的視野を広げ、また専攻課程での学修研究活動の基礎を身につけることも目的とする。

「体育運動学」は、健康の科学や運動文化への理解を深め、適切な運動習慣を身につけ、生涯にわたる健康保持のための基盤を作ることを目的とする。

「専攻分野」の系列「専攻科目」は、学生が 2 年次以降に所属する各学科が開設する専門科目であり、必要単位数 60 単位の内訳・履修方法は、学科・専攻ごとに設定する。これについては、各学科・専攻について具体的に後述する。

「関連分野」はおもに次の 3 つの系列から構成される。

「総合現代教養科目」は、地球規模で人々が考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、その中で自身の生き方を考えていくことのできる、幅広い知識と教養を獲得することを目的とする。

「基礎課程科目」は、基礎課程、すなわち 1 年次生のみを対象とする科目で、「基礎課程演習」と、各学科による入門的講義からなる。前者は、大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性の基礎を身につけることを目的とし、後者は 2 年次以降に所属すること

になる学科・専攻の学問内容や方法を、実際の授業で体験することを目的とする。

「関連分野」の系列「他学科の専攻科目」は、学生が2年次以降に所属する学科・専攻以外の学科・専攻が開設する専門科目で、他学科学生の履修も認める科目である。本学では演習・実習科目以外の大半の講義科目が、他学科所属学生にも開かれており、これらの科目の履修を通じて、自らが専攻する分野以外の専門的な知識・教養や、学問分野を相対化する多様な視点の獲得を可能とする。

4年次で全学生が執筆する「卒業論文」は、大学での学問研究の集大成として位置づけられる。自らの問題意識を明確化し、これにしたがって論旨を体系的に構成する過程を通して、専門的・学問的に思考する力、論理的に説明・発信する力を涵養する。

これら本学文学部における教育課程を「カリキュラムマップ」で示したものが資料4である。

(イ) 基礎課程と専攻課程

すでに「2.」でも述べたように、本学では1年次生は特定の学科・専攻を決めずに入学し、全員が基礎課程に所属することになっており、この基礎課程は、大学での学修の基礎を学ぶと同時に、各自の関心や適性をみきわめるための期間として位置づけられている。

そのうえで、2年次以降の専攻課程では、各学生が学科・専攻に所属し、それぞれの学問分野を専門的に学ぶこととなる。本学専攻課程の教育課程編成における基本的な考え方は、①2年次から4年次にかけて、多様な視点から幅広く学ぶという環境を維持しながら、次第に専門性を高め、卒業論文の制作につなげていく、②演習・実習といった学生が主体的かつ実践的に学修する授業科目を教育課程の中心に据える、の2点である。

以上の文学部全体の教育課程は、収容定員増員後も変更を加えない。

次に、収容定員増員を計画している各学科・専攻の教育課程について説明する。

(2) 人間関係学科

(ア) 教育課程の変更内容

人間関係学科は、社会が大きな転換点を迎える中、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、「多角的な視点」から「実証的」に分析し、広く「発信する」能力を涵養し、社会に貢献できる女性の育成を目的としている。

このような観点から、人間関係学科の教育課程では、現代の人間と社会をめぐる諸問題を、多角的・学際的な視点から実践的に学ぶことを目標とし、人格心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・比較文化学の5つの領域を設けている。2年次には、上記5領域の理論と知識の基礎を学び、3年次には各領域における理論と方法に対する理解を深めるため、研究文献の講読を行うと同時に、社会調査やフィールドワーク、その結果の分析など、実践的研究方法を身につける。このように理論と知識、実践的研究方法を段階的に深めたうえで、4年次には卒業論文を制作する。

また社会調査の基本は、所属学科の全学生が2年次に学ぶが、希望者は2~4年次に所定の科目を修得することによって社会調査士の資格を取得することができる。

人間関係学科の教育課程を「カリキュラムマップ」で示したものが資料5である。

以上のような人間関係学科の教育課程は、収容定員増員後も変更しない。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

人間関係学科の教育方法の特色は、前項にも記したように、社会調査やフィールドワークを駆使して、実践的研究方法を習得する点にある。そのため2年次には、各学問領域の基礎と社会調査の理論を学ぶために「人間関係共通演習」・「概論」科目・「社会調査入門」を必修とし(計18単位)、そのうえで3年次に学問領域ごとに設けられた「3年次演習」に分かれて、それぞれの学問領域に沿った調査と分析の手法を身につけていくという教育方法をとっている。このような教育方法については、収容定員増員後も変更しない。

次項で述べるように、本学科の専任教員数は7名、すなわち「3年次演習」と「4年次演習」のクラスは7つずつ設けられ、これは収容定員増員前後で変わらないが、増員後も1クラスあたりの学生数は、平均で約8.6人(増員前は約7.9人)と10人を下回っており、上記の実践的研究方法の指導については、十分に増員前の質を担保できると考える。

(ウ) 教員組織の変更内容

人間関係学科の専任教員数は前述したように7名で、専門分野は人格心理学1名、社会心理学2名、社会学2名、文化人類学1名、比較文化学1名となっている。この構成は、学生が「3年次演習」「4年次演習」でどの領域を選択するかという点に配慮したのもでもあり、収容定員増員後も当面は変更しない。ただし、教員数については、大学設置基準上の必要専任教員6名を満たしているが、今後見直しも予定している。

(3) 国際交流学科

(ア) 教育課程の変更内容

国際交流学科は、社会の変化に適切に対応できる見識と幅広い国際的視野を備え、文化間の相互理解や交流に貢献できる女性の育成を目的とする。そのため本学科の教育目標は、多様な文化に関する学問的知識を深め、同時に高い言語コミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための政治・経済・法律などの社会科学や情報処理の専門知識を有し、これらを通じて総合的な思考力と判断力と行動力を身につけるといふ点にある。

このような目標を実現するため、従来は、2年次に外国語コミュニケーションの力を身につけると同時に、本学科における多様な学問領域、すなわち国際文化(フランス、ドイツ、中国、韓国の文化、日欧比較思想)、国際社会(国際経済、国際社会と法、国際政治)、情報・コミュニケーション(情報処理、異文化間コミュニケーション)、といった各領域の特徴・方法を幅広く学び、そのうえで、3・4年次には演習科目を中心として、上記3領域のなかから1つを選んで専門領域に対する理解を深め、卒業論文の制作につなげていく、という教育課程をとっていた。

しかし、収容定員増員を計画している平成30(2018)年度入学者から、全体として上記の教育目標を堅持しつつ、本学科の学問領域を整理して、2つのコースを設定することを目指している。1つは、国際社会に貢献できる実践的な力を身につけることを目的とした「グローバル社会」コース、もう1つは、留学経験等を通じて、国際社会における多様な文化に対する深い理解を身につけることを目的とした「異文化コミュニケーション」コースである。2つのコースは、2年次に外国語コミュニケーション力を強化し、本学科における幅広い学問領域の基礎を習得するためのカリキュラムを共有しながら、「グローバル社会」コースでは、国際貢献の初歩を学ぶ「貢献能力開発演習」を、「異文化コミュニケーション」コースでは、3年次の留学に備えた「留学

研究演習」を必修とする。3年次以降については、「グローバル社会」コースでは、自らの専門分野を選択してゼミで実践的な研究を深めつつ、4年次の卒業論文の制作につなげていき、「異文化コミュニケーション」コースでは、3年次に半年又は1年間の留学を経験し、その成果を4年次の卒業論文に活かすというカリキュラムを組む予定である。

上記の教育課程を「カリキュラムマップ」で示したものが資料6である。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

前項で述べたように、平成30(2018)年度入学者から、本学科の教育課程を「グローバル社会」と「異文化コミュニケーション」という2つのコースに分けて編成するが、2年次に本学科の学問領域の基礎を幅広く学ぶと同時に、外国語コミュニケーションの力を強化し、3年次以後の演習を中心とした実践的カリキュラムにつなげていくという教育方法は、基本的に変更しない。ただし、「グローバル社会」コースでは、グローバル化した世界のなかで発進力を高めていくために、ディベートなどを含む英語による授業科目を増やしていく。また「異文化コミュニケーション」コースにおいては、3年次に海外留学を準必修とするが、その際、英語圏だけではなく、フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語といった第二外国語圏への留学も積極的に推奨していく。

(ウ) 教員組織の変更内容

現在の国際交流学科の専任教員は11名、専門分野はそれぞれ日欧比較思想史、中国の文化、近代フランスの文化、近代ドイツの文化、英語コミュニケーション、フランス語コミュニケーション、比較文化政策学、国際政治学、国際経済学、法学を主とする。前述したように、収容定員増員を計画している平成30(2018)年度入学者から、中核となる授業科目を共有しながら、2つのコースを設定するが、その際、おもに「グローバル社会」コースを担当するのは、上記のうち5名、おもに「異文化コミュニケーション」コースを担当するのは6名を予定している。また、大学設置基準上の必要専任教員数の6名を大幅に上回っていること、本学科は文学部の全学必修分野の第二外国語を担当していることから、英語コミュニケーションとフランス語コミュニケーション分野の教員は、現在演習と卒業論文の指導にはあたっていないが、平成30(2018)年度以降はこれらを担当する予定である。したがって、収容定員を増員し、2つのコースを設定しても、学生に対する指導の質とバランスは、十分に担保されると考える。

(4) 教育学科初等教育学専攻

(ア) 教育課程の変更内容

教育学科初等教育学専攻では、一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切に社会の実現に向けて、高い志を持ち、教育への本質的理解をベースに生涯学習の視点とグローバルな視点とを持った、初等教育に貢献できる女性の養成を目的としている。さらに平成30(2018)年度入学者から、本専攻に保育士養成課程をおくことを目指しており、そこで養成する保育士像は、以下の通りである。

- ・ 0～6歳までの発達を理解し、感性豊かで表現力のある保育士
- ・ 教育学の基礎的知識をもち、現代社会における子どもと子育ての課題を的確に把握して子どもと子育て家庭を支援する共に、子どもの成長発達に必要な教育をデザインし実践できる質の高い保育士

- ・ 義務教育及びその後の教育の基礎を培う観点、グローバルな視点から、保育・幼児教育の使命を理解し遂行できる保育士
 - ・ 保育学への高い研修研究姿勢を保持し、将来、リーダーとしての役割を担える保育士
- そのため、従来は教育学科として共通する教育課程を持ちながら、「小学校コース」と「幼稚園コース」に分けて、それぞれ小学校教諭・幼稚園教諭の免許状取得を卒業要件とするカリキュラムを設けてきたが、これを「初等教育コース」(小学校教諭免許状取得を要件とする)と「幼児教育コース」(幼稚園教諭免許状取得を要件とする)に再編成し、「幼児教育コース」には保育士資格取得を取得できるカリキュラムを並置することとした。なお、複数免許の取得を希望する学生については、「初等教育コース」にあつては小学校教諭(主免許)と幼稚園教諭、「幼児教育コース」にあつては幼稚園教諭(主免許)と保育士とする。これらをカリキュラムマップで示したものが資料7、資料8である。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

本専攻は、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の養成を目指す、いわゆる目的養成の専攻であるが、前項冒頭に記した養成すべき人材像にもあるように、生涯学習の視点、グローバルな視点といった幅広い視野を持つ教員・保育士の養成を目的としている。したがって、教育学科教育学専攻と教育課程の相当部分を共有したカリキュラムを立てている。具体的には2～4年次の演習と卒業論文とを必修とし、そこでは教育学専攻に所属する学生とともに、教育学のさまざまな課題について自律的、実践的に学習するという教育方法をとっている。一方、小学校教諭・幼稚園教諭養成のための授業科目においては、きめ細かい指導を徹底するため、少人数のクラス編成を行っており、これは導入を計画している保育士養成課程においても同様である。

以上のような教育方法及び履修指導方法については、収容定員増員後も変更しない。ただし、保育士養成課程の並置を計画しているため、教育課程の内容はより多様で充実したものになると同時に、冒頭の【文学部全体の教育課程】に掲げた卒業要件所要単位については、専攻分野の単位数を84単位から92単位に、関連分野の単位数を14単位から6単位に変更する。

(ウ) 教員組織の変更内容

前述した教育課程・教育方法に基づき、教育学科では全教員12名が、教育学専攻に所属する学生と初等教育学専攻に所属する学生全体の指導にあたっている。さらに保育士養成課程設置の計画にともない、平成30(2018)年度から2名の専任教員、平成31(2019)年度から1名の専任教員(任期付き助教)の採用を決定している。また、教員数については、大学設置基準上の必要専任教員8名を大幅に上回っており、したがって収容定員増員後も、学生指導の質は充分担保されるし、むしろ一層充実したものになると考える。

(5) 心理学科

(ア) 教育課程の変更内容

心理学科では、心理学および関連領域の幅広い知識に加え、分析的かつ柔軟な思考力を身につけることにより、多様化と情報化が進む社会のなかで自らの能力を発揮できる女性の育成を目指している。

心理学科の専門領域は、認知心理学・発達心理学・臨床心理学の3分野からなる。2年次には、心理学の全体像、各専門分野の特徴や研究方法の基礎などを学ぶとともに、心理学のいづ

れの分野においても要求される正確かつ綿密なデータの収集と分析の方法を身につける。3年次には、上記3分野から1分野を選択して、それぞれの領域についてより深く学ぶことになる。また幅広く自由選択科目を設定し、各分野の最先端の研究成果を学んだり、研究方法をより深く理解したりできるようにしている。このような過程を経て、4年次では3分野の「心理学演習」のうち1科目を選択し、卒業論文制作に向けて、参加学生が各自設定した課題についての発表と質疑を行う。

心理学科の教育課程を「カリキュラムマップ」で示したものが資料9である。

以上のような心理学科の教育課程は、収容定員増員後も変更しない。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

心理学科の教育方法の特色は、前項にも記したように、正確かつ綿密なデータの収集と分析の手法を身につけ、それを卒業論文の制作につなげていく点にある。そのため2年次では、本学科の3領域の基礎的知識を必修科目「心理学概論」(4単位)によって学ぶと同時に、「心理学実験演習1」(4単位)・「心理統計法I」(2単位)・「基礎情報処理技法」(2単位)を必修として、3年次以後、どの領域を専門的に学ぶにしても必要となる研究手法の基礎を習得するようにしている。そのうえで3年次に学問領域ごとに設けられた「3年心理学演習」に分かれて、それぞれの学問領域に沿った研究方法を一層深めていくという教育方法をとっている。このような教育方法については、収容定員増員後も変更しない。

次項で述べるように、本学科の専任教員数は8名、すなわち「3年心理学演習」と4年次の「実験心理学演習」・「発達心理学」・「発達臨床心理学」のクラスは8つずつ設けられ、これは収容定員増員前後で変わらないが、増員後も1クラスあたりの学生数は、平均で約7.5人(増員前は約6.9人)と10人を下回っており、上記の研究手法の指導については、十分に増員前の質を担保できると考える。

(ウ) 教員組織の変更内容

心理学科の専任教員数は前述したように8名で、専門分野は認知心理学2名、発達心理学3名、臨床心理学3名となっている。従来、臨床心理学分野は2名だったが、大学院に進学して臨床心理士資格の取得を希望する学生が増加したため、平成27(2015)年度に臨床心理学分野の専任教員を1名増員した結果である。また、教員数については、大学設置基準上の必要専任教員6名を上回っており、したがって収容定員増員後も、少なくとも平成26(2014)年度以前と比較すれば、本学科の教員組織は、学生指導の質の面で充実したものだと思われる。

4 大学全体の施設・設備の変更内容

平成25(2013)年度からはじまった大学のキャンパス整備計画により、「伝統に根ざした景観の形成」、「国際化・環境への配慮」、「教育各種機能の強化」、「学生が愛着を持って時を過ごすキャンパス」の視点から、学内施設の改修整備、設備機器の更新が進行している。

平成28(2016)年2月には本学に隣接する旧独立行政法人国際協力機構(JICA)の建物・土地を取得し、現在、グローバル共生研究所の新設とともに、大学全体の施設・設備の整備に伴う移転と併せて教室・研究室・講堂拡充の計画を進めている。

現在、校地面積は、大学全体で86,478㎡であり、収容定員増加後の2,050人の場合に、大学設置基準上必要な面積である20,500.0㎡を大きく上回っている。同様に校舎面積も大学全体で

32,185 m²であり、今回の収容定員増加後の大学設置基準上必要な面積である 9,089.25 m²を大きく上回っている。(なお、移転に伴う教室等の整備計画が進行中のため、一部広さや使用等に若干の変更の可能性がある。)

また、教育学科初等教育学専攻において、平成 30 (2018) 年度から保育士養成課程の開設に伴い、保育士養成に係る実習室等の教室を整備するなど、一層の教育研究効果の向上を目指している。以上の点から、大学全体の施設・設備については、変更前と同等以上の内容を担保しているといえる。

「学則変更の趣旨等を記載した書類」 根拠資料一覧

- 資料1 総合現代教養科目の概要
- 資料2 副専攻ガイド
- 資料3 1年次生対象アンケート結果
- 資料4 全学共通カリキュラムマップ
- 資料5 人間関係学科カリキュラムマップ
- 資料6 国際交流学科カリキュラムマップ
- 資料7 教育学科初等教育学専攻（初等教育コース）カリキュラムマップ
- 資料8 教育学科初等教育学専攻（幼児教育コース）カリキュラムマップ
- 資料9 心理学科カリキュラムマップ

総合現代教養科目の概要

A 群:聖心スピリットと自己の確立

- ▼聖心のアイデンティティーに直結する科目
 - 聖心スピリットと共生 他
- ▼自らの生き方を考えキャリアの形成を促す科目
 - 女性とキャリア形成
 - キャリアデザイン入門 他
- ▼地球時代の人類的課題解決に取り組む科目
 - 災害と人間
 - 難民問題の現状と課題 他

B 群:現代社会と文化

- ▼現代社会と文化
 - 暮らしのファイナンス
 - ジャーナリズムの現在 他
- ▼言語を通して世界の多様な社会と文化に関心を広げる科目
 - トルコ語の世界
 - ロシア語入門 他
- ▼古典や伝統に学び心を豊かにする科目
- ▼新たな知の世界に挑戦する実験的な科目

C 群:自然と人間

- ▼社会生活や人間観に影響をもたらす先端科学の科目
 - 現代の脳科学
 - 健康な生活と健康科学
 - 環境と経済 他

聖心女子大学

平成 28 (2016) 年度 入学者用

Multifaceted Perspectives

副専攻ガイド

英語英文学副専攻

日本語日本文学副専攻

史学副専攻

人間関係副専攻

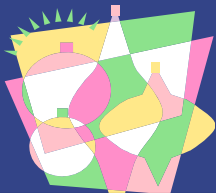
国際交流副専攻

哲学副専攻

教育学副専攻

心理学副専攻

総合リベラル・アーツ副専攻



内容

1. 副専攻とは	…	p.1
2. 副専攻コース種類	…	p.2
3. 学科・専攻が開設する副専攻	…	p.3
4. 総合リベラル・アーツ副専攻	…	p.6
5. 副専攻の修了要件	…	p.12
6. 副専攻の登録手続	…	p.13
7. 副専攻 Q & A	…	p.14
8. 平成 28 年度副専攻担当教員	…	p.15

1. 副専攻とは

聖心女子大学では、2年次から4年次までの各学科・専攻での専門的な学習に加えて、もう1つの分野・課題について、さまざまな授業を履修しながら学習する副専攻の制度を設けています。

聖心女子大学の特徴の1つに、「リベラル・アーツ教育」というのがあります。「リベラル・アーツ」はいろいろな意味で使われる言葉ですが、ここでは物事を多様な視点から考えるための幅広い教養を身につける学び方というふうに考えてください。この特徴は、下に示した、卒業までに履修する必要がある授業科目の分野とその単位数（卒業要件）にもあらわれています。

【卒業に必要な授業科目の分野と単位数】



上段の「全学共通分野」はキリスト教学・語学・体育運動学など、どの学科・専攻に所属することになっても必ず履修しなければならない科目、「専攻分野」は所属する学科・専攻の専門的な授業科目、「関連分野」は所属する学科・専攻以外の授業科目や総合現代教養科目などを指します。このうち「専攻分野」と「関連分野」の比率は、選択の幅はあるのですが、大体3：1から3：2の間となっています。自分が所属する学科・専攻以外の授業科目をこれほど多く履修するカリキュラムは、ほかの大学ではあまりみられません。ここに、聖心女子大学の「リベラル・アーツ教育」という特徴の一端が示されているのです。

副専攻とは、このような「関連分野」の授業科目を、バラバラに履修するのではなく、一定のまとまりを作り、系統的に履修するための制度です。副専攻には、〈学科が開設する副専攻〉と、〈総合リベラル・アーツ副専攻〉の2つがあります。

2. 副専攻コース種類

本学では以下の副専攻コースが設けられています。
履修開始年次は一部のコースを除き2年次からです。

▼学科・専攻が開設する副専攻コース (P.3-5 参照)

8つの専攻がその専攻に属していない学生に提供するカリキュラムです。
20単位を基本として各専攻が用意したカリキュラムに沿って科目を系統的に学修します。

開講学科専攻	副専攻コース	新規募集定員	履修開始学年
英語英文学	英語英文学副専攻		
	・英語学・英語教育学分野	6名	2年次
	・英米文学分野	8名	
・メディア・コミュニケーション分野	6名		
日本語日本文学	日本語日本文学副専攻	なし	2年次または3年次
史学	史学副専攻		
	・日本史コース ・世界史コース	なし なし	2年次
人間関係	人間関係副専攻	30名	2年次
国際交流	国際交流副専攻	なし	2年次または3年次
哲学	哲学副専攻	なし	2年次または3年次
教育学	教育学副専攻	なし	2年次または3年次
心理学	心理学副専攻	14名	2年次

〈注意〉初等教育学副専攻はありません。小学校教諭二種免許状または幼稚園教諭二種免許状取得を希望する学生には、初等教員特別プログラムが用意されています。

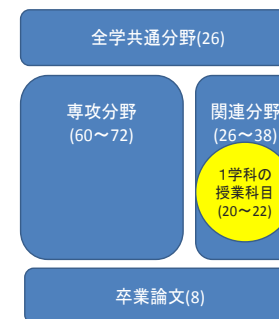
▼学科横断的に開設される副専攻コース (p.6-11 参照)

副専攻コース	新規募集定員	履修開始学年
総合リベラル・アーツ副専攻		
(1) カテゴリーA:世界の中で地域を見つける	なし	2年次または3年次
(2) カテゴリーB:多様な文化を比較する		
(3) カテゴリーC:持続可能な社会を構築する		
(4) カテゴリーD:生涯を通じたキャリアを形作る		

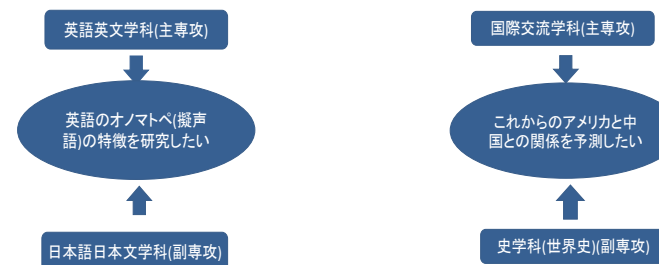
3. 学科・専攻が開設する副専攻

この副専攻は、自身が所属する学科・専攻以外に1つの学科を選び、その学科の授業科目を集中的に履修するものです。これを最初に掲げた卒業要件の図で表すと、以下のようになります。

【学科が開設する副専攻】



副専攻にどの学科を選ぶかは自由です。学科・専攻を決めるときに、A・B2つの学科のうち、どちらにするか迷っていた人は、A学科に所属して、B学科の授業科目を副専攻として学ぶという選び方もありますし、例えば以下のような課題を設定して、副専攻を選ぶこともできます。



各学科・専攻の副専攻 内容紹介

英語英文学副専攻

英語英文学専攻の授業の多くは英語で行われ、英語で読む・書く・聞く・話すという全てのスキルを磨くことができます。

本副専攻は「英米文学」「英語学・英語教育学」「メディア・コミュニケーション」の3分野からなり、分野別に募集します。2年次には入門・概論や基礎研究で該当分野の基本的な知識を身につけ、3年次にはより専門的な演習や特講を受講するとともに、英作文のクラスで自分の意見を英語で論述する力を身につけます。4年次には引き続き演習や特講を受講しながら、教員の指導のもとで各自の修了レポートや修了制作を完成させます。

日本語日本文学副専攻

国際的な視野を持って広く学問を学びたいと考えるなら、まずは自国の社会や文化を理解する必要があります。ある国の文化が〇〇という特徴を持っていると理解するには、日本の文化を比較のものさしにすることになりますから。まずはしっかりとそのものさしを作りましょう。

この副専攻では、日本語・日本文学・日本文化に関するさまざまな講義や演習を用意しています。みなさんは、自国の言語・文化・社会についての知識と洞察力を養うことができるでしょう。

史学副専攻

各自が持つ主専攻への関心をさらに広げ、境界を越えた課題解決能力を養うため、史学科副専攻の日本史、世界史の2コースが開かれています。各コースとも、人間と社会、文化について、広い時代と分野の講義と演習が用意されており、また歴史研究に必要な文献読解能力を養うための、外国語講義や日本史史料論のような科目もあります。史学副専攻で身につけた広い視野と複眼的な思考はみなさんの将来を豊にすることでしょう。

・日本史、世界史コース共に、副専攻指定科目の中から20単位以上を修得します。ただし、30単位以上修得することを推奨します。

・必修科目は特に設けません。ただし、世界史副専攻では、演習科目（世界史演習Ⅱ、Ⅲ）を4単位以上修得することを推奨します。

人間関係副専攻

人間関係副専攻では、現在を生きる「人間」をとおして社会のあり方を学際的・実証的に学び、グローバルな視点を培うことができます。スタッフには、人格心理学、社会心理学、社会学、文化人類学、比較文化学の専門家が揃っていますが、副専攻生は授業の取り方によって(社会)心理学系や社会学系、文化学系に特化して深く学ぶこともできますし、超領域的な授業から多様な視点を得ることもできます。また、長期のフィールドワーク経験を積んだ専門家からアジア・アフリカ地域の知識を学び考える授業も多くあります。常にいろいろなことにアンテナを張り、現代の諸問題を問い直す目を持つこと、客観的に、また多角的に考察する力を習得すること、フィールドに出て調査を行うバイタリティとスキルを培うこと、そのような研究活動を通じて、知を磨き、社会を見通す力を身につけ、実行力を養うことが本副専攻の目指すところです。

国際交流副専攻

国際交流副専攻では、社会科学・地域文化・文化交流・情報科学などの学問領域を通して、世界のあり方について豊かな見識を育むカリキュラムを用意しています。幅広い視野を得ることができるように、学際的・総合的に学ぶことができます。

本副専攻で培った知見を主専攻の研究に活かすことで、それぞれの問題意識をよりいっそう深め、鋭い洞察力を養うことを目的としています。

哲学副専攻

この副専攻では、論理的に考える、自分の考えを整然と説明・表現する、他人の考えを理解し、議論するといった、知的な人間が身につけておくべき基本的なスキルを磨くことができます。真・善・美・聖といった根本的な価値を考え、古今東西の思想・芸術・宗教、また同時代の事象を思想として学びながら議論を重ねることは、あなたが主専攻で学ぼうとするものの土台をかならず堅固なものにするでしょう。

教育学副専攻

今日ほど「教育」についての議論が盛んな時代はないでしょう。様々な教育問題を考える上で「教育とは何か」という本質的な問い直しが真に求められています。

本副専攻では、教育学に関する基本的な内容をカリキュラムとして用意しています。教育の意義、理念、思想、歴史、教育の社会的機能、国際比較、さらには人間の発達等について原理的に考えることで、未来を切り開く営為としての教育への学びを深めていきます。

心理学副専攻

心理学は、人間の心理とそれに伴う行動について、科学的・実証的な方法で理解することを目指す学問です。

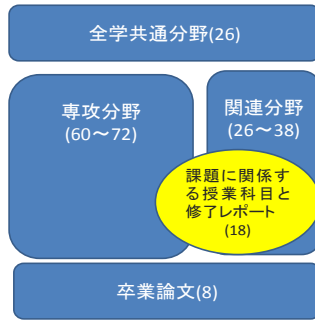
本副専攻では、学びの領域として「認知」「発達」「臨床」の3つを用意しており、人間の心理や行動のさまざまな面について科学的に学び、理解を深めることができます。人間のこころの不思議に関心を持つ学生を歓迎します。

【学科横断的に開設される副専攻コース】

4. 総合リベラル・アーツ副専攻

この副専攻は、学生自身が課題を設定し、それに関係する授業を選んで課題について考え、レポートを作成するというプログラムです。こちらについても、卒業要件との関係を図で示すと次のようになります。

【総合リベラル・アーツ副専攻】



総合リベラル・アーツ副専攻では、学生自身が課題を決めるための枠組みとして、次の4つのカテゴリーがあります。

(1)カテゴリーA:「世界のなかで地域を見つめる」

(2)カテゴリーB:「多様な文化を比較する」

(3)カテゴリーC:「持続可能な社会を構築する」

(4)カテゴリーD:「生涯を通じたキャリアを形作る」

そしてこれらのカテゴリーのなかでの具体的な課題と、それに関係する授業科目を例示していきます。なお、推奨科目はあくまで参考として掲げたもので、自分が定めた課題に関係すると思う授業を自由に選択することができます。

みなさんは、例示された課題例にそってプログラムを組み立ててもよいのですが、できれば自分自身の問題関心にたがって独自の課題を立て、シラバスをよく読んで関係する授業科目を選んでください。

各カテゴリー課題例

(1) カテゴリーA:「世界のなかで地域を見つめる」

【学習の目的】

地球上の特定の地域、また地域を越えたトランス・ナショナルな関係などを対象とし、その歴史・社会・文化等を多面的に研究する方法を学びます。そのような研究方法を学ぶことによって、現場主義的でグローバルな思考が身につきます。

【課題例と推奨授業科目(2016年度シラバスより)】

【課題例】

地域研究への接近

—その方法論と中東・アフリカ

推奨授業科目	単位	開講学科
世界史への招待Ⅰ	2	史学
世界史への招待Ⅱ	2	史学
西アジア近代史 ～国民国家化と少数民族～	4	史学
文化人類学1 ～異文化理解に向けて～	2	人間関係
文化人類学特講4 ～人類学を用いたイスラーム理解を目的して～	2	人間関係
文化人類学特講6 ～結婚を通して異文化を理解する～	2	人間関係

【課題例】

アジア研究の現在

—広く「アジア」を捉えてみる

推奨授業科目	単位	開講学科
西アジア近代史 ～国民国家化と少数民族～	4	史学
朝鮮現代史 ～となりの国のことを日本で学ぶ～	4	史学
中国近代史 ～中華人民共和國の憲政～	4	史学
中国古代史	4	史学
～伝統中国の社会生活・生活空間を考える～		
中国事情(2)	2	国際交流
～中華人民共和國の歴史と現在～		
東アジアの社会と文化(2)	2	国際交流
～ファッションからみる近現代中国の社会と文化～		
比較文化学特講1	2	人間関係
～南アジア社会文化論(南アジアの開発と貧困、そしてNGO)～		
比較文化学特講3	2	人間関係
～東南アジアの開発と女性～		
比較文化学特講4	2	人間関係
～English through Asian issues～		
比較文化学特講6	2	人間関係
～南アジアの芸能・社会と文化の基礎知識～		

【課題例】

アメリカの社会と文化を学ぶ

—アメリカ文化の多様性を知る

推奨授業科目	単位	開講学科
米文学史概説1 ～18世紀から20世紀初頭まで～	2	英語英文学
米文学史概説2 ～20世紀初頭から21世紀まで～	2	英語英文学
英語文化論[アメリカ研究]1 ～黒人音楽の生成と発展	2	英語英文学
異文化理解 ～Understanding Foreign Cultures～	2	英語英文学
アメリカ史	4	史学
～人種・階級・ジェンダーからみるアメリカ～		

【課題例】

東アジアの社会と文化を学ぶ

—中国と韓国との多角的な比較

推奨授業科目	単位	開講学科
中国文学概論Ⅰ	2	日本語日本文学
中国文学概論Ⅱ	2	日本語日本文学
中国近代史 ～近現代台湾の憲政～	4	史学
比較文化学特講2 ～現代韓国の社会文化～	2	人間関係
比較文化学特講3 ～東南アジアの開発と女性～	2	人間関係
比較文化学特講4 ～English through Asian issues～	2	人間関係
東アジアの社会と文化(2) ～ファッションからみる近現代中国の社会と文化～	2	国際交流

【課題例】

ヨーロッパの社会と文化を学ぶ

—「ヨーロッパ」とは何かを考える

推奨授業科目	単位	開講学科
英文学史概説2 ～An Outline of English Literature～	2	英語英文学
ヨーロッパ中世史Ⅰ ～ヨーロッパ中世の犯罪と刑罰～	4	史学
ヨーロッパ近代史Ⅰ ～グローバルな危機?17世紀の英独・人口・社会変動～	4	史学
ヨーロッパ現代史Ⅰ ～映画で学ぶナチズムとホロコースト～	4	史学
ヨーロッパ現代史Ⅱ ～20世紀ヨーロッパにおける芸術と政治～	4	史学
フランスの社会と文化(1) ～写真と芸術～	2	国際交流
フランスの社会と文化(2) ～旅と芸術家たち～	2	国際交流
ドイツ事情(1) ～セクシュアリティからみたジェンダー～	2	国際交流

H28(2016)年度開講されない科目

(2) カテゴリーB：「多様な文化を比較する」

【学習の目的】

世界の複数の地域における言語・文学などを比較することにより、それぞれの文化の共通性、あるいは文化の多様性について考察します。ものごとを相対的に把握しようとする姿勢、また見出した諸要素を整理・分析する能力や、それらを総合する思考力を身につけることができます。

【課題例と推奨授業科目(2016年度シラバスより)】

【課題例】
世界の言語を比較する

推奨授業科目	単位	開講学科
第二外国語(オラル)	各2	全学共通
トルコ語の世界	4	総合現代教養
ロシア語入門	4	総合現代教養
英語学概論 ～言語の成り立ちを探る～	4	英語英文学
日本語学概論 I ～現代の日本語(語彙・音声)～	2	日本語日本文学
日本語学概論 II ～語彙・文字・音声の歴史～	2	日本語日本文学
言語学概論 I ～日本語のしくみと世界の言語～	2	日本語日本文学
対照言語学 I	2	日本語日本文学
中国文学概論 I	2	日本語日本文学
中国文学概論 II	2	日本語日本文学
ギリシア語 I	4	哲学
ラテン語 I ～ラテン語初等文法～	4	哲学

【課題例】
世界の小説を比較する

推奨授業科目	単位	開講学科
キリスト教 II-13 ～日本の近・現代文学とキリスト教～	4	全学共通
ジェンダー学2-2 ～ジェンダーで読むシェイクスピア～	2	総合現代教養
英文学史概説1 ～A History of English Literature～	2	英語英文学
米文学史概説1 ～18世紀から20世紀初頭まで～	2	英語英文学
日本文学史 I ～上代の文学～	2	日本語日本文学
日本文学史 II ～中古文学史～	2	日本語日本文学
日本文学史 III ～中世文学史～	2	日本語日本文学
日本文学史 IV	2	日本語日本文学
ドイツの社会と文化(1) ～ドイツ文学を読む～	2	国際交流
ドイツの社会と文化(2) ～ドイツ文学を読む～	2	国際交流

【課題例】
音楽について考える

推奨授業科目	単位	開講学科
キリスト教 II-5 ～受難音楽の歴史～	4	全学共通
ビートルズの詩と音楽	2	総合現代教養
ロシア文化史 ～ロシアの音楽劇(オペラ・検閲)とロシア文学～	4	史学
世界音楽地誌	4	史学
比較文化学特講6 ～南アジアの芸能・社会と文化の基礎知識～	2	人間関係
音楽概論1 ～音楽の基礎～	2	教育学
人間学習3 ～音楽・人間・社会～	2	教育学

(3) カテゴリーC：「持続可能な社会を構築する」

【学習の目的】

現在地球規模でおきている環境・社会・経済・文化の諸問題に向き合うため、「共生」や「持続可能性(サステナビリティ)」などをキーワードとして、各国政府、国際機関、NGOなどの取り組みについて学び、グローバル化の進展する世界の中で地域社会および国際社会が抱える課題を考察します。

【課題例と推奨授業科目(2016年度シラバスより)】

【課題例】
宗教と共生

推奨授業科目	単位	開講学科
キリスト教 II-3 ～キリスト教と倫理～	4	全学共通
聖心スピリットと共生 ～聖心の伝統と現代における意義～	2	総合現代教養
比較文化学特講3	2	人間関係
宗教思想史 I ～メソポタミアの創世神話から神々の興衰まで～	2	哲学
宗教思想史 II ～日本の宗教思想～	2	哲学
キリスト教特講IV ～ユダヤ教から聖書を考える～	4	哲学
比較文化学特講5 ～日本に暮らす外国人・移民の生活に学ぶ～	2	人間関係
比較文化学特講6 ～南アジアの芸能・社会と文化の基礎知識～	2	人間関係

【課題例】
気候変動と貧困問題

推奨授業科目	単位	開講学科
環境と経済	2	総合現代教養
聖心スピリットと共生 ～聖心の伝統と現代における意義～	2	総合現代教養
災害と人間 ～3.11以後の社会と文化～	2	総合現代教養
ボランティア研究概論1 ～社会的課題とボランティア～	2	総合現代教養
ボランティア研究概論2 ～地球的な課題とボランティア活動～	2	総合現代教養
地球化時代のNGO ～NGO活動と時代・環境～	2	総合現代教養
比較文化学特講7 ～国際開発学入門～	2	人間関係
自然地理学2 ～気象・気候について正しく理解しよう～	2	人間関係

【課題例】
環境と開発

推奨授業科目	単位	開講学科
環境と経済	2	総合現代教養
比較文化学特講1 ～南アジア社会文化論(南アジアの開発と貧困、そしてNGO)～	2	人間関係
開発経済学	4	国際交流
国際平和と開発援助 ～紛争後の復興開発を考える～	2	総合現代教養
比較文化学特講3 ～東南アジアの開発と女性～	2	人間関係
比較文化学特講7 ～国際開発学入門～	2	人間関係

【課題例】
国際協力とボランティア

推奨授業科目	単位	開講学科
国際平和と開発援助 ～紛争後の復興開発を考える～	2	総合現代教養
ボランティア研究概論1 ～社会的課題とボランティア～	2	総合現代教養
ボランティア研究概論2 ～地球的な課題とボランティア活動～	2	総合現代教養
比較文化学1 ～NGO、NPO、ボランティア、そしてアジアを学ぶ～	2	人間関係
比較文化学特講1 ～南アジア社会文化論(南アジアの開発と貧困、そしてNGO)～	2	人間関係
比較文化学特講5 ～日本に暮らす外国人・移民の生活に学ぶ～	2	人間関係
比較文化学特講7 ～国際開発学入門～	2	人間関係
人間学習8 ～グローバル化時代における国際理解教育～	2	教育学

【課題例】
国際社会における教育協力

推奨授業科目	単位	開講学科
地球化時代のNGO ～NGO活動と時代・環境～	2	総合現代教養
Leadership for Sustainable Development 1	2	英語英文学
Leadership for Sustainable Development 2	2	英語英文学
文化人類学1 ～異文化理解に向けて～	2	人間関係
発展途上国における教育問題1 ～国内外フィールド学習に向けた知識基盤の形成～	2	教育学
発展途上国における教育問題2 ～国内外フィールド学習後の知識基盤の形成～	2	教育学
比較文化学1 ～NGO、NPO、ボランティア、そしてアジアを学ぶ～	2	人間関係
人間学習8 ～グローバル化時代における国際理解教育～	2	教育学

【課題例】
開発とジェンダー

推奨授業科目	単位	開講学科
地球化時代のNGO ～NGO活動と時代・環境～	2	総合現代教養
ジェンダー学5-1 ～国際社会におけるジェンダーの課題～女性の健康を中心として～	2	総合現代教養
ジェンダー学5-2 ～地球規模課題としてのジェンダー～	2	総合現代教養
ジェンダー学6-2 ～ジェンダー・開発・NGO～	2	総合現代教養
ボランティア研究概論2 ～地球的な課題とボランティア活動～	2	総合現代教養
比較文化学特講3 ～東南アジアの開発と女性～	2	人間関係
比較文化学特講7 ～国際開発学入門～	2	人間関係
人文地理学2 ～人口問題と女性の時間～	2	人間関係
開発経済学	4	国際交流

(4) カテゴリーD：「生涯を通じたキャリアを形作る」

【学習の目的】

現代に生きる女性の生涯を通じたキャリアを、仕事、家族、生涯学習など多様な側面から考えます。社会の中での女性たちの現状を知り、男性女性のあるべき未来について考えながら、あるいは、「自己」や「人間」のあり方を見つめながら、この問題を追究していきます。本カテゴリーを通じ、自らの生涯にわたるキャリアを主体的に形成する姿勢を養うとともに、今日、企業・行政・地域など社会のさまざまな場で必要とされている、ジェンダー問題にかかわる知見を身につけることができます。

【課題例と推奨授業科目(2016年度シラバスより)】

【課題例】
女性にとつての仕事と家庭

推奨授業科目	単位	開講学科
女性とキャリア形成	2	総合現代教養
キャリアデザイン入門	2	総合現代教養
ジェンダー学1	2	総合現代教養
ジェンダー学2-2 ～ジェンダーでよむシェイクスピア～	2	総合現代教養
ジェンダー学6-3 ～制度・政策としてのジェンダー論～	2	総合現代教養
家族社会学1 ～ライフコースとジェンダーで読み解く現代家族～	2	人間関係
職業社会学1	2	人間関係
社会学特講2 ～現代日本の格差と貧困～	2	人間関係

【課題例】
ジェンダー視点で見る妊娠・出産・育児

推奨授業科目	単位	開講学科
キャリアデザイン入門	2	総合現代教養
ジェンダー学5-1 ～国際社会におけるジェンダーの課題～女性の視座を中心として～	2	総合現代教養
ジェンダー学6-3 ～制度・政策としてのジェンダー論～	2	総合現代教養
心理学入門	2	総合現代教養
家族社会学1 ～ライフコースとジェンダーで読み解く現代家族～	2	人間関係
哲学・倫理学特講Ⅹ ～生命倫理～	2	哲学
発達心理学特講6 ～進化と発達から見る母子コミュニケーション～	2	心理学
発達心理学特講8 ～虐待・ネグレクトと子どもの心理・発達～	2	心理学

【課題例】
自律とは何か
—自らの行動を主体的に律するとは—

推奨授業科目	単位	開講学科
憲法3	2	総合現代教養
現代を考える	2	総合現代教養
ジェンダー学1	2	総合現代教養
人格心理学1 ～人格臨床心理学入門～	2	人間関係
社会心理学特講1	2	人間関係
哲学・倫理学特講Ⅶ ～問いからのアプローチ～	2	哲学
西洋教育運動史 ～人物を中心とする社会思想・教育思想と実践～	2	教育学
教育哲学2 ～対話とは何か～	2	教育学

【課題例】
時代や地域を越えた女性の生き方、働き方

推奨授業科目	単位	開講学科
ジェンダー学5-2 ～地球規模課題としてのジェンダー～	2	総合現代教養
ジェンダー学6-3 ～制度・政策としてのジェンダー論～	2	総合現代教養
古典文学研究Ⅳ ～恋愛結婚から読む平安朝文学～	2	日本語日本文学
近代文学研究Ⅰ ～書き始めた女性—近代文学の先駆者たち—	2	日本語日本文学
アメリカ史 ～人種・階級・ジェンダーからみるアメリカ～	4	史学
文化人類学特講6 ～結婚を通して異文化を理解する～	2	人間関係
ドイツ事情(1) ～セクシュアリティからみたジェンダー～	2	国際交流

【課題例】
生涯発達を考える
—人は一生 発達し続ける—

推奨授業科目	単位	開講学科
ジェンダー学3-1 ～ライフコースとジェンダー～	2	総合現代教養
ポランティア研究概論1 ～社会的課題とボランティア～	2	総合現代教養
心理学入門	2	総合現代教養
家族社会学1 ～ライフコースとジェンダーで読み解く現代家族～	2	人間関係
生涯学習概論 ～共に生きることを学ぶ社会の構築を目指して～	2	教育学
臨床心理学特講1Ⅰ ～老年心理学～	2	心理学
発達心理学特講6 ～進化と発達から見る母子コミュニケーション～	2	心理学
発達心理学2	2	心理学

総合リベラル・アーツ副専攻では、**課題に関係する授業を16単位**(一般に1年間の授業は4単位、半期の授業は2単位になります)以上履修したうえで、**課題についての修了レポート作成(2単位)**を、修了の条件としています。なお、設定した課題に関係する授業のなかには、自分が所属する学科・専攻の授業も含まれる場合があることを考慮して、16単位のうち、4単位までは自分が所属する学科・専攻の授業を含めてもよいことにしています。

また、集中した期間のなかで問題意識を高めていってほしいこと、修了レポートを4年次での卒業論文執筆に役立ててほしいことなどから、総合リベラル・アーツ副専攻は、原則として2年次に登録、3年次後期に修了レポート作成という短期集中型の形をとっています。そのスケジュールは、以下のようになります。

- ① 2年次4月 副専攻ガイダンスに出席
- ② 2年次4月 副専攻に登録(カテゴリーと課題を選択)
- ③ 2年次前期～3年次後期 課題に関係する授業科目を履修
- ④ 3年次後期 修了レポート作成
- ⑤ 卒業時 副専攻修了認定と修了証の授与



以上のように、副専攻制度は、卒業までに履修が必要な授業科目の枠のなかで、「関連分野」の科目を、自身の問題関心にしたがって、系統立てて学ぶようにデザインされたものです。副専攻は選択制で、卒業するための条件になっているわけではありませんが、聖心女子大学の「リベラル・アーツ教育」を一層実り豊かなものにするため、皆さんが副専攻制度を積極的に活用することを期待します。

5. 副専攻の修了要件

(1) 修了要件について

各副専攻によって修了要件は異なります。

『履修要覧 2016』(p. 160～183)を確認してください。

修了要件例：日本語日本文学副専攻（抜粋）

- 修了要件
日本語日本文学副専攻指定科目の中から、関連分野の単位として、合計 20 単位以上修得していること
- 副専攻指定科目
日本語日本文学副専攻の指定科目は、『開講科目一覧』の副専攻欄に「C1」と記載された科目です。
指定科目は開講年度ごとに見直されます。

(2) 副専攻修了要件に含まれる単位について

【各学科・専攻の副専攻】

指定科目のうち関連分野の単位として修得したものに限り、副専攻修了要件に含めることができます。

【総合リベラル・アーツ副専攻】

自分が所属する学科・専攻において開講されている科目の単位を 4 単位まで副専攻修了要件に含めることができます。

(3) 副専攻履修開始前に修得した単位について

副専攻履修開始前に修得した単位は、副専攻の修了要件に算入できます。

(4) 証明書等への記載

履修中の副専攻コースについては、成績通知書および成績証明書（和文）に記載されます。

修了した場合は、卒業後も成績証明書（和文）に副専攻コースが記載されます。

副専攻を修了した場合、卒業時に副専攻修了証が授与されます。

〔参考〕平成 27 年度副専攻修了証授与 … 45 名

6. 副専攻の登録手続き

副専攻履修希望者は 4 月のガイダンス*に出席し、副専攻登録希望調査票を教務課に提出してください。

※平成 29 年度副専攻ガイダンス日程は 1 月に掲示予定

副専攻登録確定者は掲示にて通知します。定員を上回る履修希望者があった場合は、選抜を行います。また、登録確定後の各副専攻コースのガイダンス日程についても別途掲示等で通知します。

参考 平成28年度 副専攻登録手続き

日程	事項
4月5日 (火)	12:00 副専攻ガイダンス(新規登録希望者のみ) 宮代ホール 「副専攻登録希望調査票」配付
4月6日 (水)	13:00 「副専攻登録希望調査票」提出締め切り(提出先:教務課窓口)
4月7日 (木)	9:00 登録確定者発表(3号館1階 副専攻掲示板) <※選抜なし>

※ 履修中止について

副専攻の履修をとりやめる場合、受付期間に教務課に申し出、履修中止の手続きをしてください。

副専攻履修中止受付期間は、履修取消期間と同じです。各自で確認してください。

履修中止の手続き後に履修を再開したり、新たな副専攻を登録することはできません。



副専攻修了者の声(アンケートより)

- ✦ 「多様化する社会において人々の思想や宗教に対する深い理解を得られると思った」
- ✦ 「本学の特色あるすばらしい制度だと思う」
- ✦ 「入学当時から 2 つの分野で迷っていたので、どちらの授業も取れて満足している」
- ✦ 「主専攻の勉強を他分野からのアプローチで見ることにより視野が広がった」
- ✦ 「複眼的な視野を養う助けになった」
- ✦ 「授業に対する姿勢が変わった (たくさん吸収しようと思い始めた)」
- ✦ 「関連として講義を受けるだけでは物足りないが、副専攻できちんと学べた」
- ✦ 「学生生活が充実した」
- ✦ 「学んだことが他方面にも及ぶとアピールできることが魅力」

7. 副専攻 Q&A



質問①「修了するには何単位必要ですか？」

学科・専攻が開設する副専攻のほとんどは、副専攻修了の最低単位数が20単位で、総合リベラル・アーツ副専攻は18単位です。

質問②「副専攻は負担が多くありませんか？」

副専攻修了に必要な単位は、関連分野の単位としてカウントされるので、卒業に必要な単位のなかで履修することができます。

質問③「副専攻を変更することはできますか？」

登録をすると、途中での変更はできません。

なお、途中で副専攻の履修を取り止める場合は、定められた期間に教務課へ申し出て履修中止の手続きをします。履修中止手続き後、再登録はできません。

質問④「副専攻を履修するメリットはなんですか？」

関連分野の科目をもう一つの専攻として系統的、体系的に学ぶことで複眼的な認識力を身につけることができます。学科専攻型副専攻の場合、専攻以外の学生が関連科目として履修できない科目も、副専攻登録者には履修できる場合があります。

主専攻の他に副専攻を修了したということは、組み合わせの工夫や努力の成果によっては社会的にも様々な面でプラスに評価されることになるでしょう。

質問⑤「副専攻を修了した証明はもらえますか？」

各副専攻で決められた修了要件を満たした学生に対し、副専攻修了証が授与されます。



質問⑥「各副専攻のことを詳しく知るには誰に相談すればいいですか？」

各副専攻には副専攻担当の教員がいます。平成29年度の担当の先生は未定ですが、平成28年度については次頁に記載されています。

気軽に研究室を訪問してみてください。

もちろん、教務課の窓口でも相談に応じます。

質問⑦「副専攻の掲示板はどこにありますか？」

副専攻の掲示板は3号館1階（教務課掲示板付近）にあります。

9. 平成28年度 副専攻担当教員

● 各学科・専攻の副専攻

英語英文学副専攻	山田 由紀 先生
日本語日本文学副専攻	岩田 一成 先生
史学副専攻	桑名 映子 先生
人間関係副専攻	石井 洋子 先生
国際交流副専攻	久保田 知敏 先生
哲学副専攻	上石 学 先生
教育学副専攻	北村 和夫 先生
心理学副専攻	佐々木 正宏 先生

佐々木 恵介 先生(史学)
★オフィスアワー★
月曜 4限
場所:個人研究室(1号館3階)

● 総合リベラル・アーツ副専攻

カテゴリーA	山田 由紀 先生 (英語英文学)
	畑 浩一郎 先生 (国際交流)
カテゴリーB	岩田 一成 先生 (日本語日本文学)
	長野 美香 先生 (哲学)
カテゴリーC	小城 英子 先生 (人間関係)
	西原 直枝 先生 (教育学)
カテゴリーD	味岡 徹 先生 (史学)
	岸本 健 先生 (心理学)

※各副専攻について(テーマ(研究課題)設定や履修計画等の相談を含む)は、各学科・カテゴリーの担当教員にお問い合わせください。

★先生方のオフィスアワーはWeb [General Information](#) でご確認ください



平成28年12月発行

【編集/発行】教務委員会

【作成/問い合わせ先】学務事務部 教務課

1 年次生対象 アンケート

1. 新入生アンケート結果（一部抜粋）

対象：平成 26 年度～平成 28 年度 学部 1 年次生（回答率平均 65%）

実施時期：各年度 5 月

学 科	過去 3 年間平均※
英語英文学科	69%
日本語日本文学科	79%
史 学 科	92%
人間関係学科	161%
国際交流学科	185%
哲 学 科	56%
教育学科教育学	96%
教育学科初等教育学	143%
心 理 学 科	150%

※設問【Q9. あなたは本学の受験を考えたとき、希望の学科専攻は決まっていたか】において、“決まっていた”、あるいは“なんとなく決まっていた”と回答した人数を母数とし、設問【Q10 Q9 で 1 か 2 と答えた方、その際の学科・専攻はどれですか（複数回答可）】において「希望学科・専攻」を選択した人数割合を過去 3 年間で平均したもの。

2. 専攻希望動向調査志望者数

調査対象：平成 26 年度～平成 28 年度 学部 1 年次（回答率平均 82%）

実施時期：平成 26 年度 10 月、平成 27 年度 1 月、平成 28 年度 1 月

学 科	入学定員	過去 3 年間平均※
英語英文学科	90	70%
日本語日本文学科	45	128%
史 学 科	55	79%
人間関係学科	55	161%
国際交流学科	60	142%
哲 学 科	40	93%
教育学科教育学専攻	25	79%
教育学科初等教育学専攻	40	118%
心 理 学 科	55	127%

※各学科の入学定員に対し、希望者数の比率を過去 3 年間で平均したもの。

全学共通カリキュラムマップ

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
全学-1 キリスト教学Ⅰ 聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ		全学-2 キリスト教学Ⅱ	
全学-3 英語・ 全学-4 第二外国語 語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる		Advanced Studies in Foreign Languages 語学力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す	
全学-5 体育運動学 健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる			
全学-7 総合現代教養科目 世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する			
全学-6 基礎課程科目 大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める 基礎課程演習 各学科・専攻の入門科目		他学科・他専攻の専門科目 副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ 各学科カリキュラムマップ参照	

全学-8
卒業論文

自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を大成する

人間関係学科カリキュラムマップ

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
キリスト教学Ⅰ	聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ		キリスト教学Ⅱ
英語・第二外国語	語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる	Advanced Studies in Foreign Languages 語学力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す	
体育運動学 健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる	世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する		
総合現代教養科目	他学科・他専攻の専門科目 副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ		
	学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける		
基礎課程科目 大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める	人格心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・比較文化学の5つの学問領域の基礎を学び、社会と人間を学際的・総合的に理解する視点を身につける	ゼミに所属し、専門分野を深く追究すると同時に、「社会調査実習」を通じて社会調査の実践を経験し、調査研究のスキルを修得する	3年次までに修得したスキルに基づいて、各自の研究テーマで調査を行い、論文にまとめる。1月末には卒論発表会でプレゼンを行う
基礎課程演習	演習科目		
	「人間関係共通演習」	人関-6 「3年次演習」	人関-7 「4年次演習」
各学科・専攻の入門科目	講義科目		
	人関-1 各分野の「概論」	人関-2 各分野の「特講」	
	社会調査士科目		
	人関-3 【理論の学習】	人関-4 【データ処理スキルの学習】	人関-5 【社会調査の実践】

卒業論文

自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を集大成する

国際交流学科カリキュラムマップ

2年次

3年次

4年次

「グローバル社会」コース

学科の学問領域の基礎を学び、
外国語コミュニケーションの力を養
うとともに、国際貢献のあり方の基
礎を身につける

「貢献能力開発演習」

専門科目をさらに追究し、自らの
専門分野を決定、英語力、ICT活
用力、協働力を実践レベルに向上
させる

「演習Ⅰ」

演習科目を中心として専門分野を
研究、また発進力を強化して卒業
論文を制作する

「演習Ⅱ」
「卒業論文」

「国際交流概論」

「英語コミュニケーション」

【講義科目】

〈Advanced Studies in foreign Languages〉

〈国際社会論(政治・経済・国際機構・国際文化政策等)〉

〈国際報道とメディア〉

〈地域研究〉

〈情報リテラシー〉等

「基礎言語コミュニケーション」
(仏・独・西・中・韓)
「留学研究演習」「演習Ⅰ」
半期ないし1年の海外留学「演習Ⅱ」
「卒業論文」

学科の学問領域の基礎を学び、
外国語コミュニケーションの力を養
うとともに、留学に向けて準備する

半期ないし1年の留学を通して、実
際に海外での学修経験を積むこと
で、実践的かつ柔軟な異文化理解
のスキル、ならびに専門的知識を
身につける

留学経験を活かしつつ、演習で専
門分野の知識を深めると同時に、
外国語による発信能力に磨きをか
け、質の高い卒業論文を制作する

「異文化コミュニケーション」
コース

* 「 」は授業科目名、〈 〉は授業の分野・内容を指す

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
キリスト教学Ⅰ	聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ		キリスト教学Ⅱ	
英語・第二外国語	語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる			
体育運動学	Advanced Studies in Foreign Languages 語学力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す			
健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる				
総合現代教養科目	世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する			
基礎課程科目 大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める 基礎課程演習 各学科・専攻の入門科目	他学科・他専攻の専門科目 副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ			
	学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の見方を身につける			
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や初等教育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育を考える ・子どもの発達を理解し、教育の具体的方法について学ぶ ・教育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師に必要な資質への理解を深める ・教師にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師像に向けた自己課題を明確にする 	
	必履修	初教(小)-1 2年ゼミ	必修	初教(小)-2 学年ゼミ
	必修	初教(小)-3 基礎理論		
	必修	初教(小)-4 教職の意義等、教科の指導法、教科内容の概論、教育の社会的事項、教育の課程		
	選択必修	初教(小)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程、教育の方法		
			必修	初教(小)-6 特別活動・生徒指導等、教育実習、教職実践演習
	選択必修		初教(小)-7 人間学習	
	選択		初教(小)-8 自由選択科目	

卒業論文

自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を集大成する

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
キリスト教学Ⅰ	聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ		キリスト教学Ⅱ	
英語・第二外国語	語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる	Advanced Studies in Foreign Languages 語学力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す		
体育運動学 健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる	世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する			
総合現代教養科目				
他学科・他専攻の専門科目 副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ				
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける				
基礎課程科目 大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める 基礎課程演習 各学科・専攻の入門科目	1 年次 奨励 自由選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や初等教育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師像を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な実践を知り、広い視点から教育を考える ・子どもの発達を理解し、教育の具体的方法について学ぶ ・教育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師に必要な資質への理解を深める ・教師にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師像に向けた自己課題を明確にする
		必修 初教(幼)-1 2年ゼミ	必修 初教(幼)-2 学年ゼミ	
		必修 初教(幼)-3 基礎理論		
		必修 初教(幼)-4 教職の意義等、幼児の教育課程、幼児教育の方法、幼児理解の理論、保育内容の研究、教科内容の概論、教育の社会的事項		
		選択必修 初教(幼)-5 教育理念・教育史、発達と学習の過程		
			必修 初教(幼)-6 教育実習、教職実践演習	
		選択必修	初教(幼)-7 人間学習	
		選択	初教(幼)-8 保育士専門科目 等	

卒業論文

自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を集大成する

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業論文 自ら定めた課題について学問的に探求し、四年間の学修を集成する	
キリスト教学Ⅰ	聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ		キリスト教学Ⅱ		
英語・第二外国語	語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる	Advanced Studies in Foreign Languages 語学力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す			
体育運動学 健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる	世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する				
総合現代教養科目	他学科・他専攻の専門科目 副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ				
基礎課程科目 大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める	学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける				
	〈認知〉〈発達〉〈臨床〉の3領域の基本的な知見を学習し、実証的な研究手法を習得する	関心領域の専門性を深化させると同時に、他領域や関連する最新の心理学的知見を学習する	学んできた知識と手法を生かして卒業論文を作成する		
	「心理学概論」 「基礎情報処理技法」 「心理学実験演習1」「心理統計Ⅰ」	「3年心理学演習」	「実験心理学演習」 「発達心理学演習」 「発達臨床心理学演習」		
	心理-1 【特講】				
	心理-2 【自由選択科目】				

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	オカザキ ヨシコ 岡崎 淑子		博士 (民族音楽学)		聖心女子大学学長 (平成23.10～平成31.3)

(注) 高等専門学校にあつては校長について記入すること。